

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成26年6月19日(2014.6.19)

【公表番号】特表2011-523097(P2011-523097A)

【公表日】平成23年8月4日(2011.8.4)

【年通号数】公開・登録公報2011-031

【出願番号】特願2011-512592(P2011-512592)

【国際特許分類】

G 0 2 C 7/04 (2006.01)

【F I】

G 0 2 C 7/04

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年4月8日(2014.4.8)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 4】

「e値」は、完全に球状な角膜をゼロの値で示す、角膜の離心率の尺度を言う。負のe値は急勾配な中間の縁を有する平坦な中央部分(扁平な表面)を示し、正のe値は中央において急勾配で周辺で平坦な角膜(扁長の表面)を示す。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 4 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 4 7】

複数の視覚ゾーン201、202、203はまた、次第に急勾配になるには負の離心率(e)値を、次第に平坦になるには正の離心率(e)値を有する非球面曲率で置き換えることができ、軸方向厚さに徐々に増大および減少する効果を有し、半径方向外側に圧力コントローロゾーン22に接続する。ソフトコンタクトレンズ10は、前記のようにしなやかで、角膜表面に適合し、ベースカーブ30に加え前面視覚カーブ31は共に視覚ゾーン20とその分割ゾーン201、202、203で所望の軸方向厚さを形成するのに有効である。視覚ゾーンで徐々に増加または減少する軸方向厚さを形成することは、当該技術分野で既知の方法で行うことができる。たとえば、半径方向外側に広がる徐々に減少する厚さは、次第に平坦になる背面カーブ30または次第に急勾配になる前面カーブ31を提供することにより(あるいは前面および背面カーブの両方を組み入れることにより)形成できる。次第に平坦になる背面カーブは正のe値を有し、次第に急勾配になる前面カーブは負のe値を有する。徐々に増加する厚さは、逆のやり方で形成される。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 5】

あるいは、ベースカーブ30に正のe(離心率)値または前面視覚カーブ31に負のe(離心率)値を組み込むことにより、遠視用の中央の倍率(度)を変化させずに、コンタ

クトレンズ10の幾何的中心を最も厚い部分に、そして視覚ゾーン20の外縁を最も薄い部分にすることができる。

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0059

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0059】

あるいは、ベースカーブ30に負のe(離心率)値または前面視覚カーブ31に正のe(離心率)値を組み込むことにより、遠視用の中央の倍率(度)を変化させずに、コンタクトレンズ10の幾何的中心を最も薄い部分に、そして視覚ゾーン20の外縁を最も厚い部分にすることができる。

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0075

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0075】

位置合わせカーブ50のサジタル高さまたはAEL(軸方向縁隆起)は、平均のK(KMとしても知られる)：(垂直KM+水平KM)/2により求められる。同様に中央の平均Kは、角膜の離心率(e値)により中間の周縁の曲率半径を推定するのに再計算され、位置合わせゾーン26が角膜12に接触する点に一致する。角膜の離心率は、周縁の角膜の平坦さの尺度であり、ゼロは球面の形状を示し、1.00は放物線形状を示す。普通の角膜は、ほぼe=0.5の離心率を有する。